

歯学部50周年を祝して…私の回顧録…

新潟大学名誉教授 石 岡 靖

50周年おめでとう。長い歴史を一時立ち止まってみると、忘れていた50年が繋がって出てくる不思議な興味に惹かれる。昭和37年頃、7年先輩の林 都志夫教授（東医歯大・第1補綴・当時）から新潟行きを誘われましたが、何時とも不明確、当時、私は順天堂大学の病院に勤務していました。終日、外来診療だが、天下に名高い順天堂で、江戸徳川家の侍医で、佐藤家は医学研修所経営、現世には医学・体育の大学に昇格した。そして、佐藤家の「サ」が大学の校章として輝いている由緒輝く佐藤家順天堂です。当時から、新幹線、飛行機で北海道、九州から通院する患者層も多い、名高い病院で、臨床医としては、働き効がある環境でした。玄関の額には、『良医と成るも 名医と成る勿れ』。

新潟は林教授と「二人三脚」と喜んでいたら、一回生の学部進学と同時に、君が先に行ってくれと、簡単に入れ替わったのが、私の新潟人生の始まりでした。家内には何の相談も無かったと、今でも、年に1回位の愚痴か、不満を聞かされています。そして、東北は嫌いと、今でも言っています。人生最大 不覚の失態と反省しています。

当時の新潟大学は、五十嵐全学統合の紛争と、いわゆる全共闘が混同した理念も判らないような集団が、殺伐とした環境の中で実無き教育論、人生論を轟音とも区別できない討論会に明け暮れていました。

1回生が専門課程に進学する昭和42年に着任して、伊藤辰治学長に初の御挨拶に伺いました。学長室でパターの練習中だったので、何ら話もなく、1～2分で終了しました。新任者としては些か気抜けで残念でした。その後、確か10年位過ぎてから、全部床義歯の治療に來られました。上下顎の全部床義歯で、高度の咬合、咀嚼不全症状でした。治療は半月ほどで、トラブルもなく終了し

ました。後日、「入れ歯がこんなに噛めるとは知らなかった」との御批評を人伝えに伺いました。数ヶ月過ぎて、伊藤先生の後輩で学長を務められた法医学の山内教授が、伊藤先生の話を知ったので、全部床義歯を頼むと来院されました。同様、噛めない義歯でした。御希望通りの義歯が完成して御満足戴きました。大先生方も義歯の効用はご存知なく、改めて義歯咀嚼機能を再認識戴き、有難き幸せでした。

全学の雰囲気は、歯学部を祝うところか、邪魔者が増えたが、校舎、病院は如何するのかと、紛争の種が増えた位の関心で、校舎、病院は五十嵐と叫んでいました。歯学部より早く旧新潟高等学校の校舎にいる人文学部教官曰く「昨日来た歯学部は1万平米余の鉄筋を建てるとは何事だ」「人文の教官は、まだ、着任した書籍の整理も出来ない」と、新設歯学部に不満をぶつける騒ぎです。人文は人文、歯学部は歯学部と割り切って対応することが、波風立てない安全の策でした。

歯学部生みの親の医学部は現地整備を固守して、統合移転の意志は無い。歯学部は医学部と隣接を条件に現地整備を主張して、態度・主張を終始変えませんでした。事態は医学部教室、講堂の封鎖で実害が大きく拡大したので、大学本部に機動隊を導入して、一件落ち着いたが、立て籠り全共闘は既にもぬけの殻でした。機動隊導入の早朝には本部に行き、午後から教室員の結婚式仲人役で、ホテルに急行する騒ぎの1日が終りでした。

歯学部全共闘は何処に分散したのでしょうか。全員が無事に卒業出来ておめでとう。新設歯学部の最大任務は教員確保、教材整備、教育環境、校舎・病院です。先ず必要は用地の確保です。五十嵐全学統合の中で、現地希望の交渉は、難事の難事業でした。

新学部の情報は全員に濃淡無く伝えられる事が

絶対条件、理解は各人が決める事。カリキュラム、建物、教官組織等々、多くの会議が活動していた。全員が意見を述べる組織を作りたい。私の同僚で優れた文才家の福原教授と歯学部ニュースを始めた。ワープロ・コピー機が無い、謄写版時代で、学部のニュース版は珍しい時代。それが、今も働いている。当時のカリキュラム委員会、建物委員会、教官組織委員会等々多くの情報伝達に活躍した。

旧医学部病院前のグラウンドが第一候補地でした。ここは、医系学会のテニスコートと医学部野球場もあります。医学部と近接地は此処しか無いのか、旧新潟高校グラウンドも候補地として検討対象でした。医学部と隣接が最要求課題で、グラウンド案が要求されて、承認されました。医学部野球場有難うございます。御協力を感謝申し上げます。

歯学部整備の最大事業は校舎、病院の建設と大学院設置でした。特に、大学院は文部省に“お百度参り”で励みましたが、校舎が未整備、教官に不適合者がいるなど、認可が難しい状況でした。ある日、文部省で大学課長にお会いしたら、長崎学長が設置審議会委員に会って下さいという、大変に急いだ要請でした。早速に電話で、長崎学長に要件を報告して、至急上京をお願いしました。更に大学課長は、医科歯科大学の清水学長にもお願いしたいので、連絡して下さいという事で、私自身、あまりにも急な事態で戸惑いながら、清水学長にお電話しましたが、御留守でしたので、学長室でお帰りをお待ちして、大学課長の要件をお伝えして、御了解を戴きました。先生には、急ぎ事で大変に御迷惑をおかけいたしました。大学課長からの要請は、全て予定通りに御了解戴き、要件は達せられました。僅か半日の出来事でしたが、長崎学長の審査委員への挨拶周りの準備も整い、後日、予定通りに審査を受ける準備が整いました。

長崎学長は、大学院設置審査の難点である校舎・病院の整備計画概要「47年3月着工、48年3月竣工」を文部省、設置審議会に提出して、設置審議会の審査を受けて、設置許可となりました。全教官の努力が大学院の基礎を支えた結果です。有難う。私は数十年前に清水教授の細菌学の講義を受けた学生です。清水教授有難うございました。

当初は、1回生卒業時に合わせて大学院認可を計画して居りましたが、1年遅れました。過去の歯学部大学院設置では一番早いと、文部省担当官からお祝いを云われて、気分爽快、これで“虎ノ門お百度参り”も終了。心の荷物軽く、大学に戻って来たように、思い出しています。

設置審議会の認可に必要な事項は、まだありました。大学院の研究発表機関誌の刊行です。勿論、現在も継続する「新潟歯学会誌」で、大学院設置の重要な要件です。表紙は基礎系教官のデザインです。大切にしましょう。巻頭言を1巻1号に記しました。

新設歯学部が全学連闘争の嵐を受けながらも、50年の研究を重ねて成長しました。これには、全学の絶大な支援・応援、そして、生命科学への明日の解明を掲げての更なる努力が原動力となった躍進です。将来、北陸ではなく、必ず、世界の歯学部になります。

“創設期6年間の学部長回顧録”となりましたが、私は90歳、約50年前の事です。予期しない偶然ですが、建築問題や大学院問題で文部省に日参していた時の文部大臣が、私達の仲人さんでした。驚いて大臣に御挨拶に伺いました。静岡県選出衆議院 高見議員でした。大臣も色々勉強されて、歯学部の事も御存知で、建築、大学院を心配されて居られました。この様な嬉しい廻り合わせがあるのでしょうか。幸運も何処かで廻っていました。